

日本ファイナンス学会第17回大会  
会員総会議題

日時：平成21年5月9日（土）午後17：00

会場：青山学院大学青山キャンパス総研ビル国際会議場

1. 平成20年度活動状況の報告
  - ・会員状況（資料1）
  - ・学会誌の発行状況（資料2）
    - 現代ファイナンス
    - International Review of Finance*
  - ・研究観望会報告第14回大会報告（資料3）
2. AsianFA/NFA 2008 International Conference 国際大会報告（資料4）
3. 平成20年度会計報告・監査報告（資料5）
4. 平成21年度予算（資料6）
5. 2010年次期大会開催校について

以上



# 資料 1

## 日本ファイナンス学会 会員状況

平成 21 年 4 月 22 日(水)

	2009 年度	2008 年度	2007 年度	2006 年度
正会員	1399 名	1362 名	1372 名	1379 名
学生会員	0 名	0 名	0 名	0 名
会員数	1399 名	1362 名	1372 名	1379 名
特別賛助会員	25 社	25 社	25 社	25 社
純法人会員	29 社	29 社	31 社	32 社
法人会員合計	54 社	54 社	56 社	57 社

※海外会員 28 名

### ●新規加入 2009 年 4 月 22 日現在

	2009 年	2008 年度	2007 年度	2006 年
法人会員	2 社	1 社	2 社	2 社
個人会員	39 名	65 名	66 名	54 名

### 2008 年度に入会した法人

●特別賛助会員 株式会社・アソシエツ・ジャパン

●法人会員 みずほ情報総研(株)

### 2009 年度に入会した法人

●法人会員 公立大学法人首都大学東京  
イクスピアリジャパン(株)

### 『現代ファイナンス』に関する報告

- 論文投稿状況 (2008年4月～2009年3月) 合計 17本 (前年同期 32本)  
(大学関係者 10(26)本、実務家 5(2)本、大学関係者と実務家の共同論文 2(4)本) (所属は執筆時、カッコ内本数は前年同期)
  
- No.24 (2008年9月)  
審査対象論文数 合計 28本 (継続審査論文を含む)  
審査結果 (掲載 6本、掲載不可 8本、継続審査 14本)  
No.24 掲載論文  
小倉義明「リレーションシップ型金融仲介の経済分析」  
青野幸平「日本の株式市場の予測可能性」  
竹内(野木森)明香/渡部敏明「日本の株式市場におけるボラティリティの長期記憶性とオプション価格」  
石原庸博/大森裕浩「TOPIX収益率のマルコフ・スイッチング非対称確率的ボラティリティ変動モデルによる分析—順序サンプラーによる探索」  
白須洋子/米澤康博「社債流通市場における社債スプレッド変動要因の実証分析」  
花枝英樹/芹田敏夫「日本企業の配当政策・自社株買い—サーベイ・データによる検証」
  
- No.25 (2009年3月) (実際の発行は2009年5月に遅延)  
審査対象論文数 合計 23本 (継続審査論文を含む)  
審査結果 (掲載 3本、掲載不可 7本、継続審査 13本)  
No.25 掲載論文  
井坂直人/吉川浩史「売買単位の変更と株式収益率」  
窪田康平/筒井義郎「消費者金融業の競争度」  
北村智紀/中嶋邦夫「確定拠出年金における継続投資教育の効果—実験による検証—」
  
- その他の事項  
1. (編集者数の変更) No.24の編集完了後、江口高顕氏が編集者を辞任し、No.25から新たに沖本竜義、神山直樹の両氏が編集者に参加して12名の編集体制になった。

現代ファイナンス2008年度収支報告

2007年度繰越金			2,646,262
[収入] 2008年度出資金	MPTフォーラム	¥2,200,000	4,400,000
	日本ファイナンス学会	¥2,200,000	
転載料収入	(日経メディアマーケティング)		200,000
預金利息			4,768
2008年度総収入			4,604,768
[支出] 「現代ファイナンス」制作費 No.24		¥3,055,780	3,055,780
支払銀行手数料			840
印紙代(契約書用)	(日経メディアマーケティング)		400
2008年度総支出			3,057,020
次年度繰越金			4,194,010

\*「現代ファイナンスNo.25」は2009/5に発行

## International Review of Finance 誌に関する報告

2008年度には、以下の2号(合併号2冊)が発行された。

### International Review of Finance Vol. 8, Nos. 1/2, Mar/Jun 2008(合併号)

配布年月：2008年7月

部数：1600部

Contents:

**H. Chu and G. Partington** "The Market Valuation of Cash Dividends: The Case of the CRA Bonus Issue"

**Aelee Jun, V.T. Alanganar, Graham Partington and Max Stevenson** "Price and Volume Behavior around the Ex-dividend Day: Evidence on the Value of Dividends from American Depository Receipts and their Underlying Australian Stocks"

**Amelia Pais** "Securitization and Rate Setting in the UK Mortgage Market"

**Chih-Hsien Jerry Yu** "Institutional Trading and Price Momentum"

### International Review of Finance Vol. 8, Nos. 3/4, Sept/Dec 2008(合併号)

配布年月：2008年12月

部数：1600部

Contents:

**Khamis Al Yahyaee, Toan Pham and Terry Walter** "Ex-Dividend Day Behavior in the Absence of Taxes and Price Discreteness"

**Geoffrey J. Warren** "Implications for Asset Pricing Puzzles of a Roll-over Assumption for the Risk-Free Asset"

**David Michayluk and Karyn Neuhauser** "Is Liquidity Symmetric? A Study of Newly Listed Internet and Technology Stocks"

**David Colwell, Julia Henker and Terry Walter** "Effect of Investor Category Trading Imbalances on Stock Returns"

□

2009年5月9日

## 研究観望会活動報告

代表幹事 本多 俊毅

2008年度における研究観望会は、第15回、第16回と2回にわたり開催されました。あらかし以下のとおりですが、熱心な会員が集まり、盛況裡に終了するとともに、日常的な研究交流に資することができました。

### 第15回研究観望会

日時：2008年9月26日（金）

テーマ：「IPO市場のパズル：価格形成のメカニズムデザイン」

報告者：忽那 憲治（神戸大学大学院経営学研究科 教授）

会場：学術総合センター2階中会議室  
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

出席：51人（個人47人、法人関係4人）（受付ベース 全92人）

### 第16回研究観望会

日時：2009年3月25日（水）

テーマ：「非線形金利期間構造モデルの近似」

報告者：高見澤 秀幸（筑波大学大学院人文社会科学研究科 講師）

会場：社団法人金融財政事情研究会2階会議室  
東京都新宿区南元町19

出席：52人（個人34人、法人関係18人）（受付ベース 全90人）

以上

## AsianFA/NFA 2008 International Conference

## 国際大会報告

日本ファイナンス学会・アジアファイナンス学会  
2008 合同国際大会組織委員会  
組織委員長 大橋 和彦

日本ファイナンス学会/アジアファイナンス学会 2008 合同国際大会 (AsianFA/NFA 2008 International Conference) は、2008 年 7 月 6 日(日)～9 日(水)の 4 日間、パシフィコ横浜会議センターにおいて開催されました。海外 24 ヶ国、183 名の参加を得て、総勢 535 名による盛大な大会となり、水準の高い報告論文 197 本、9 つの特別招待講演をなどにより大成功を収めることができました。これも、会員各位、金融関係団体、民間金融機関はじめ多くの方々の温かいご協力、ご支援によるものと深く感謝する次第です。以下、今次国際大会のあらましを報告いたします。

今次国際大会は、日本ファイナンス学会とアジアファイナンス学会 (Asian Finance Association) との 2 回目、10 年ぶりの合同大会で、加えて Financial Management Association(米国)、独立行政法人国際観光振興機構 (JNTO) など幅広い協力団体のご支援をいただきました。

## 1 会議の目的とテーマ：

ファイナンスの研究は、近年急速な発展をみせ、その応用は世界経済、物流に影響を与えるまでに至っております。とくに近年の経済グローバル化のなかでアジア・太平洋諸国の著しい経済発展に伴い、ファイナンス研究は大きな広がりを見せてきております。そこで日本ファイナンス学会は、米国の最先端の研究者を数多く招きつつ、アジアファイナンス学会とともにテーマとして The Mission of Financial Studies in Globalized Economy を掲げ、研究交流の一大国際大会を企画しました。

## 2 参加者数：

国内	一般参加者	178 名 (外同伴者 0 名)
	招待者・関係者	180 名 (外同伴者 0 名)
海外	一般参加者	162 名 (外同伴者 4 名)
	招待者	15 名 (外同伴者 2 名)
計		535 名 (外同伴者 6 名)

参加国数： 24 ヶ国・地域

(アジア太平洋：中国、香港、日本、韓国、マカオ、マレーシア、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール、台湾、タイ、オーストラリア、ニュージーランド、米州：カナダ、アメリカ、カナダ、欧州：ベルギー、フランス、ドイツ、ギリシャ、オランダ、スウェーデン、スイス、イギリス、)

## 3 会議の成果：

- 1) 日本ファイナンス学会 (NFA)・アジアファイナンス学会 (AsianFA) 2008 合同国際大会は、欧米諸国を含む海外 24 カ国からファイナンス研究者 177 名の参加を得て、総勢 535

名に上る熱気に満ちた一大国際研究交流の場を実現することができました。

2) 世界のファイナンス研究は、近年急速な発展と多様性を見せており、応募論文も 635 本（海外 560、日本 75）に達する盛況ぶりでした。厳正審査の結果、197 論文がアクセプトされ、レベルの高い研究が報告されることになりました。学術セッション(Parallel Session)は 64 部会、8 会場に分かれ、熱心な研究交流が展開されました。プログラムにあるとおりにきわめて多様な研究が展開されております。プログラムの詳細は、NFA ホームページに掲載されております。 <http://www.nfa-net.jp/data/2008ConferenceProgram.pdf>

3) 大会は、これらのアカデミックな研究論文報告に加えて、特別企画 (Special Session) として世界的に著名な研究者を招待して、最新研究成果について講演してもらうこととしました。Keynote speakers、Invited speakers などの招待講演は、次のとおりで、多数の聴講者を会場に集め、最新の研究成果を得ることができました。

**Keynote Speakers:**

Eduardo Schwartz, UCLA: *Commodity Derivatives and Real Options.*

Kenneth Singleton, Stanford University: *Why do risk premiums in sovereign credit markets covary?*

**Special Invited Speakers:**

Jerome Detemple, Boston University: *Applications of Malliavin calculus to investment and pension plan management.*

Roger Ibbotson, Yale University: *History and Equity risk premium*

Michael Lemmon, University of Utah: *Employee stock options, past, present and future.*

Sheridan Titman, University of Texas: *What we know and don't know about capital structure.*

Jiang Wang, MIT: *The theory of market liquidity*

Kurt Winkelmann, Goldman Sachs Group Inc.: *Designing and managing an investment policy with alternative asset classes.*

Guofu Zhou, Washington University: *Parameter estimation risk and portfolio choice.*

4) また東京大学金融教育センター(CARF)と米国 FMA(Financial Management Association) 共催によるフォーラム **Corporate Governance around the World** においては、Keynote speaker として Ralph Walkling (Drexel University) 教授を招待し、参議院議員の田村耕太郎氏、シンクタンク代表の田村達也氏 (元日銀理事) に加わってもらい、世界的課題である Corporate Governance の最先端の議論を深めていただきました。

5) 一方、日本ファイナンス学会としては、大学生レベルにおいてもファイナンス研究を広めるためこの機会を役立てたいと考え、国際大会開催記念として「大学生のための特別シンポジウム “日本の金融の未来”」を開催しました。パネラーに次の著名人各氏を招き、示唆に富む興味深い討論をしていただきました。

伊藤達也氏 (元金融担当大臣、衆議院議員)

能見公一氏 (あおぞら銀行元会長、一橋大学教授)

武者陵司氏 (ドイツ証券副会長)

山田晴信氏 (HSBC 在日副代表)

高野 真氏 (ピムコ・ジャパン社長)

山崎養世氏 (元ゴールドマン・サックス投信社長)

幸い、多くのご協力、推薦者を得て、275 名ものファイナンス学徒に参加していただくことができました。

6) **Doctoral Student Consortium** が共催団体である米国 FMA(Financial Management Association) が運営主体となって開催されました。前半、8 人の指導教授がパネラーにな



ってプレゼンテーションおよび質疑討論が行われ、後半にはアクセプトされた 16 人の博士課程学生の論文が発表され、世界レベルの指導講師がコメントしたり、進路指導するワークショップが行われました。Doctoral Students には、日本人 2 人を含むアジア・太平洋諸国から 16 人が選ばれました。

7) **Welcome Reception** がパシフィコ横浜 (501+502 会議室) にて約 250 名の参加者を得て開催されました。来賓として、金融庁総務企画局政策課長 鷲見周久氏、経済産業省経済産業政策局産業資金課長 小宮義則氏、東京大学名誉教授 貝塚啓明氏、みずほ証券取締役副社長 村山昌博氏、パークレーズ・グローバル・インバスターズ代表取締役社長 ヒキダ・ロス氏、その他東京証券取引所、大阪証券取引所、三菱 UFJ 信託銀行、野村証券、日興アセットマネジメント、三井住友アセットマネジメント、東京金融取引所の幹部多数の方に出席いただきました。

8) 最終日 7 月 9 日の夜には、パンパシフィックヨコハマベイホテル東急で **Conference Dinner** が華やかに開催されました。日本証券アナリスト協会会長 鈴木行生氏、同専務理事 萩原清人氏、東京穀物商品取引所常務理事 浜田英俊氏、東京工業品取引所顧問 宇佐美洋氏、Asian Finance Association 会長 Kalok Chan 氏、Financial Management Association 前会長 Ralph Walkling 氏などの方々を来賓としてお招きし、参加者は約 200 名を数えました。パーティの中で優秀論文表彰式(Award)が行われ、日本証券アナリスト協会(SAAJ)賞 2 名および Pasific-Basin Financial Journal 誌賞 2 名の受賞者に賞状と賞金が授与されました。

#### 9) **Award**

今回大会における優秀論文の表彰には、Pacific-Basin Finance Journal 賞に加え、新たに日本証券アナリスト協会(SAAJ)賞が追加されました。大会 Academic Program Committee 国際委員会は、多数の応募論文の中から次の 4 論文を選び、Conference Dinner において表彰式が行われました。席上、スポンサー代表から著者代表それぞれ賞状と賞金が授与され、受賞者のみならず参加者にも今後の研究の励みとなるメッセージが伝えられました。

#### **SAAJ Research Excellence Award (日本証券アナリスト協会賞)**

- (1) 論題 *"Predicting Stock Market returns with Aggregate Discretionary Accruals"*  
著者 Qiao LIU, University of Hong Kong, School of Economics and Finance  
Qiang KANG, University of Miami, Finance Department  
Rong QI, St. John's University, Peter J. Tobin College of Business
- (2) 論題 *"Managerial Promotions: The Determinants and Incentive"*  
著者 Rujing Meng, University of Hong Kong,  
Xianming Zhou, University of Hong Kong

#### **Pacific-Basin Finance Journal Research Excellence Award**

- (3) 論題 *"Beyond Cash Flow and Voting Rights: Valuation and Performance of Firms in Complex Ownership Structure"*  
著者 Sang Yong PARK, Yonsei University, Department of Business Administration  
Heitor ALMEIDA, University of Illinois at Urbana-Champaign, Department of Finance  
Marti G. SUBRAHMANYAM, Stern School of Business at NYU  
Daniel WOLFENZON, Stern School of Business at NYU
- (4) 論題 *"Share Issuance and Cross-Sectional returns: International Evidence"*  
著者 Akiko WATANABE, University of Alberta  
Robert David MCLEAN, University of Alberta

#### 4 会計報告ならびに会計監査：(別紙「国際大会収支報告」参照)

成功裡に終了した今次国際大会は、収入支出規模が4456万円に達し、前回98年大会に倍するものとなりました。(別紙に収支状況を一覧化しましたので、ご参照ください。)規模の大きい国際大会は、運営費用においても特別にかかるものなので、事前に、有力会員の協力をいただき、各方面に財政支援を仰ぎました。その結果、幸いにも寄付金は3456万円に達し、支出の77.5%を充足することができました。これが第一の特徴です。

まず収入からみると、NFA会員主体に個人寄付を557万円いただき、金融機関、団体等の法人からは2899万円という多大な寄付をたまわることができました。これに参加費収入718万円、NFA会計から279万円を補てんすることにより、国際大会を無事終えることができました。金融環境が世界的規模で悪化するなかにあって、これだけの寄付をいただけるとは望外のよるこびでした。お蔭さまで上記のとおり、国際大会は世界中の参加者から賛辞をいただくと同時に、日本ファイナンス学会の今後の活動にも励みになるものと考えております。

一方、支出は、大会当日のConference Dinner、会場費・設備・機材借用料、招待講演経費などで予算の過半を占めます。しかし今回、組織委員会は経費はできるだけ低廉にすむよう努力をかさねました。幸い、第一に会場費・設備利用費がパシフィコ横浜という施設であったため低廉ですみました。第二に招待講演謝礼等がさまざまの協力により比較的 low cost で済んだことがあげられます。第三に国際会議運営サービス会社(ICSコンベンションサービス)の協力で、Welcome Dinner はじめ随所に合理的に運営できたことがあげられます。いままでにない、大学生むけイベント企画が実現するなど、低予算でできたのは、こうした各方面の協力によるものと考えております。

なお、JNTO(独立行政法人国際観光振興機構、日本政府観光局)の規定により、公認会計士の監査証明ならびに国土交通省の了承が必要とされておりましたので、それぞれ手続きをして承認をいただきました。会計報告の添付資料をご参照ください。

最後に、会員各位ならびに寄付ならびにさまざまな協力をしていただいた金融機関・団体の皆さま、そして会員各位に深甚なる感謝を表する次第です。


以上

収入の部	44,557,104	支出の部	44,557,104
<b>1 寄付金収入</b>	<b>34,567,500</b>	<b>1 大会準備費</b>	<b>8,694,535</b>
個人寄付(35会員より)	5,577,500	1) 人件費	1,730,434
法人寄付(順不同)	28,990,000	事務局員(JTB-ICS)	1,585,000
みずほ証券		事務局員(NFA)	145,434
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント		2) 交通費	61,056
東京工業品取引所		3) 庁費(JTB-ICS、NFA)	6,903,045
東京穀物商品取引所		参加者登録処理費	2,302,891
日本商品先物振興協会		(システム料、入力処理費、Cカード手数料、査証手数料等)	
日本証券アナリスト協会		印刷・制作物	2,444,400
大阪証券取引所		(Program Book、Proceedings・CD-ROM、Congress Bag等)	
東京金融取引所		通信・運搬費	295,346
東京証券取引所グループ		広報宣伝費	637,649
日興アセットマネジメント		Webサイト構築費	828,178
野村証券		会議・会合費	247,657
三菱UFJ信託銀行/MTEC		郵送料	101,848
みずほ第一フィナンシャルテクノロジー		手数料	19,375
野村総合研究所		事務用品	25,701
金融財政事情研究会		<b>2 大会運営費</b>	<b>31,899,590</b>
住友信託銀行		1) 人件費	2,277,424
三井住友アセットマネジメント		コーディネータ	714,000
イボットソン・アツシエイツ・ジャパン		スタッフ(外国語対応含む)	497,369
パークレーズ・グローバル・インベスターズ		旅行デスク	146,055
日本証券投資顧問業協会		NFAアルバイト	920,000
ビムコ・ジャパン		2) 旅費	3,330,811
不動産証券化協会		招待講演者旅費	1,235,793
オリックス		招待講演者宿泊費	1,039,500
		NFA宿泊費	809,818
		JTB-ICS宿泊・交通費	245,700
<b>2 大会参加費収入</b>	<b>7,188,750</b>	3) 庁費	26,291,355
AsianFA会員参加費	6,012,750	会場費(パンフィコ会議センタ)	6,605,550
NFA会員参加費	1,176,000	会場設営・機器・設備費	3,488,265
		装飾関係	623,700
<b>3 銀行利息収入</b>	<b>8,320</b>	記録写真撮影費	383,040
		DSC食事代	157,955
<b>4 NFA会計から繰入</b>	<b>2,792,534</b>	大学生シンポジウム費	250,000
NFA2007年度より、805,406円繰入		理事会・パネラー会合費	116,250
NFA2008年度より、1,987,128円繰入		NFAスタッフ食事代	46,978
		アルバイト・スタッフ弁当代	138,240
		AsianFA交流Reception	438,200
		Welcome Dinner費(7・7)	2,418,110
		同アトラクション	300,000
		Conference Dinner費(7・8)	4,109,317
		同アトラクション	591,150
		大会参加者昼食費	2,086,835
		Coffee Break(3日分)	498,000
		Award費用(2論文)	233,178
		会議運営委託費	2,069,762
		講演者謝礼	1,415,000
		主催運営費(コピー、トランシー	320,250
		手数料	1,575
		<b>3 募経費</b>	<b>1,914,610</b>
		1) 募金交通費	1,250
		2) JNTO交付金管理費	1,732,700
		3) 募金趣意書印刷費	32,550
		4) デザイン代	42,000
		5) Web掲載費用	42,000
		6) 事務用品	56,700
		7) 郵送費	7,410
		<b>3 事後処理費</b>	<b>2,048,369</b>
		1) 搬送費	31,000
		2) CD-ROM追加作成費	55,051
		3) 公認会計士監査料	525,000
		4) 通信費	4,830
		5) AsFA会費戻し(166人×@\$85-)	1,385,178
		6) 手数料	47,310

## 監査報告書

AsianFA / NFA 2008 International Conference 組織委員会  
組織委員長 大橋和彦 殿

平成 21 年 1 月 19 日

公認会計士 河合伸亮 

私は平成 20 年 7 月 6 日から平成 20 年 7 月 9 日まで横浜市のパシフィコ横浜会議センターにおいて行なわれた AsianFA / NFA 2008 International Conference の収支計算書について監査を行った。

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続きを実施した。

即ち、収入については振込銀行に指定された銀行通帳の入金記録等、支出については業者の請求書、預金通帳の出金記録等、当該収支を証する書類を試査基準で抽出して査閲し、かつ、必要と認められる確認を実施し、AsianFA / NFA 2008 International Conference の収支記録の記載と合致していることを確かめた。

監査の結果、AsianFA / NFA 2008 International Conference の採用する会計処理の原則及び手続きは一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠し、また、表示方法も一般に公正妥当と認められる基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の収支計算書が 20 年 7 月 6 日から平成 20 年 7 月 9 日まで行なわれた AsianFA / NFA 2008 International Conference の収支の状態を適正に表示しているものと認める。

AsianFA / NFA 2008 International Conference と私との間には公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上



(様式第12号)

交付金確定通知書

平成 21 年 4 月 21 日

JNTOコ誘(交)6号

Asian FA/NFA 2008 International Conference 組織委員会  
組織委員長 大橋 和彦 殿

独立行政法人国際観光振興機構  
理事長 間宮 忠 敏



平成 20 年 4 月 14 日付の交付決定通知書により、交付金交付を通知した下記国際会議等について、提出のあった報告書等を検討の結果、交付の条件に適合すると認められますので、下記のとおり交付金の額を確定いたします。

記

1 交付対象国際会議等の名称 「Asian FA/NFA 2008 International Conference」

2 交付金確定額 34,567,500 円

3 交付決定通知書からの交付金確定額への異動

イなし

あり 寄附金目標額 40,000,000 円から確定額 34,567,500 円へ

# 資料 5

平成 21 年 5 月 9 日

会 員 各 位

日本ファイナンス学会  
監事 竹澤直哉、亀坂安紀子  
倉田 勲

## 平成 20 年度会計報告ならびに監査について

1 平成 20 年度の会計は、平年の通常会計に加え、特別な処理を求められる国際大会会計がありますが、ここでは、例年の通常会計を主体に報告をいたします。別紙「平成 20 年度決算会計報告」参照してください。

2 平成 20 年度の総収入は、5794 万円 (22.39%増) とたいへん好調な結果になっております。これは 20 年度開催の国際大会開催に伴い NFA に直接寄せられた賛助金 855 万円が新たに加わったことが主因となって、前年度に続き、一時的収入によって増加をもたらされたことによります。また、基礎的な収入である会費収入をみると、20 年度の会費収入は 1949 万円 (12.47%増) と好調な増加となりました。これには、国際大会を機に個人会費が伸びたことであり、法人会員についても 625 万円 (4.6%増) と堅調でした。この結果、その他収入を加え、20 年度収入総額は 5794 万円 (22.39%増) となりました。

3 一方、支出総額も 2890 万円 (63.22%増) と今までにない大幅な増加となりました。これは、第一に国際大会に対する NFA 本会計からの負担支出 198 万円があったこと以上に、IRF 購入費が昨年からずれ込んだため、一気に 3 年分 1254 万円を支払ったことによります。これに伴う発送費、郵送料、封筒代等の必要経費も比例して増加しています。また、研究観望会など他の活動も相変わらず活発で、このための経費増が底堅く続いております。しかし、一時的な国際大会賛助金収入に支えられ昨年並みの繰越金 2904 万円を残すことができました。

4 また支出のうち、今後注意しなければならないのは、(1)ホームページの改善 (電話・通信費) は引き続き行う必要がありますし、(2)IRF 購入支払いに備えての外貨購入が必要になることでしょう。20 年度は、円高基調もあって外貨預金に都合がよい環境であったので US\$40,000 購入しましたが、1 年分に過ぎません。財政事情と為替動向を考慮しながら対応する必要があります。

5 しかし、現在の金融機関をめぐる経営環境を反映して、当面法人会員の低迷はなお続くと見られるなかで、会計事情は依然きびしい状況にあるといえます。不断に財政維持のための措置を考えていく必要があります。

以上、所見を述べるとともに、会計処理については正確かつ適切に処理されていることを承認し、適正に監査したことを報告します。

以上

日本ファイナンス学会平成20年度 決算会計報告(案)  
(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	29,636,522	G 郵送料(郵便、宅配便等)	1,076,187
B 会費	19,490,000	H 電話・通信費(プロバイダー費用含)	1,087,040
正会員(19年度以前会費)	8,000 × 25 = 200,000	I 発送作業費	131,177
正会員	10,000 × 571 = 5,710,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 29 = 1,450,000	J 学会案内等印刷費	148,803
特別賛助会員	200,000 × 20 = 4,000,000	K 理事会運営費	323,483
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	L 封筒・用箋等作成費	89,460
自動引落分	7,328,000	M 国際大会費繰入	1,987,128
会費不足分	2,000	(案内・報告要旨印刷その他)	
C 特別賛助金	8,550,000	N 第17回大会準備費	195,225
D 円預金利息	46,074	O 学会誌作成費	14,748,149
前期 H20.8.18	27,572	現代ファイナンス	2,200,000
後期 H21.2.23	18,502	International Review of Finance	12,548,149
E 学会誌売上	204,080	P 事務用品購入費	11,738
現代ファイナンス	176,870	(PCソフト・プリンタートナー等)	
IRF	27,210	Q アルバイト料	3,615,460
F 大会予稿集売上	21,500	R 研究観望会費(2回)	1,258,849
		(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
		S 手数料支払	143,308
		(自動引落料、送金手数料等)	
		残高証明発行手数料	630
		みずほファクター手数料(4回)	114,218
		振込、送金手数料	28,460
		T 外貨	4,040,200
		定期預金(09/5/28 \$20,000 @¥105.16)	2,103,200
		普通預金(09/11/20 \$20,000 @¥96.85)	1,937,000
		U その他	50,000
		アナ協H20会費	50,000
A+B+C+D+E+F 日本円合計	¥57,948,176	G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U 日本円合計	¥28,906,207
		残 高	¥29,041,969 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H21.3.31)	¥28,989,541
		現金有高	¥52,428

(次ページへ続く)

収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$20,313.55		
b 円勘定より振替(09/5/28、外貨普通預金)	20,000.00		
c 外貨普通預金利息収入	5.64		
前期 H20.8.18	0.40		
後期 H21.2.23	5.24		
d 外貨定期預金(09/11/20、新設)	20,000.00		
e 外貨定期預金利息収入(2口)	277.47		
(1035829)			
H20.5.27	49.47		
H20.8.27	39.12		
H20.11.28	46.08		
H21.3.2	28.85		
(9609815)			
H20.8.28	40.33		
H20.11.28	44.77		
H21.3.2	28.85		
a+b+c+d+e			
US\$合計	US\$60,596.66	US\$合計	US\$0.00
		残 高	US\$60,596.66 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H21.3.31)	20,596.66
		定期預金(みずほ銀行 H21.3.31)	40,000.00

平成21年 4月 27日

日本ファイナンス学会事務局 作成



# 残高証明書

日本ファイナンス学会 様

平成 21 年 3 月 31 日 現在

金額合計	¥ 28,989,541 ※
------	----------------

種類	番号	金額 (円)	摘要
普通預金	1743750	28,989,541 以下余白	

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

平成 21 年 4 月 1 日

(注) この証明書の金額は訂正いたしません。

預金の残高には他店券によるご入金分も含まれております。

株式会社みずほ銀行  
四谷支店  
038032



1 6 0 - 0 0 1 2

新宿区 南元町 19-6階

日本ファイナンス学会 様

# 残 高 証 明 書

2009 年 3 月 31 日 現在

(通貨略称を金額頭部に表示し、補助通貨金額は、※欄に表示します。)

種 類	番 号	金 額			※	摘 要
外貨普通預金	0701434			USD2059666		
外貨定期預金	1035829			USD2000000		
外貨定期預金	9609815			USD2000000		
		** 以下余白 **				

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

2009 年 4 月 1 日

株式会社 **みずほ銀行**

(注) この証明書の金額は訂正いたしません。

四谷支店



3355349

日本ファイナンス学会平成19年度 決算会計報告  
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入				支出		
<円勘定>				<円勘定>		
A	前年度繰越金		22,953,018	H	郵送料(郵便、宅配便等)	1,607,919
B	会費		17,328,000	I	電話・通信費(プロバイダー費用含)	1,197,141
	旧学生会員(滞納分)	5,000 × 5 =	25,000	J	発送作業費	522,181
	正会員	8,000 × 682 =	5,456,000		(発送代行業者への支払等)	
	正会員(20年度会費先払)	10,000 × 5 =	50,000	K	学会案内等印刷費	546,363
	法人会員	50,000 × 31 =	1,550,000	L	理事会運営費	443,374
	法人会員(半期分)	25,000 × 1 =	25,000		(理事会開催費・お弁当代等)	
	特別賛助会員	200,000 × 18 =	3,600,000	M	封筒・用箋等作成費	227,325
		300,000 × 1 =	300,000	N	第15回大会費	2,940,358
		500,000 × 1 =	500,000		(案内・報告要旨印刷その他)	
	自動引落分	5,818,000	5,818,000	O	国際大会準備費	895,957
	会費不足収入	4,000	4,000	P	学会誌作成費	2,200,000
C	第15回大会収入		456,260		現代ファイナンス	2,200,000
	懇親会費	4,000 × 95 =	380,000	Q	事務用品購入費	12,258
	NEEDSパンフ配布料		51,260		(PCソフト・プリンタートナー等)	
	予稿集売上	1,000 × 25 =	25,000	R	アルバイト料	3,254,620
D	国際大会寄付		6,250,000	S	研究観望会費(2回)	1,373,671
E	円預金利息		44,259		(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
	前期 H19.8.20		22,027	T	手数料支払	119,368
	後期 H20.2.18		22,232		(自動引落料、送金手数料等)	
F	学会誌売上		251,330		残高証明発行手数料	630
	現代ファイナンス		221,330		みずほファクター手数料(4回)	113,588
	IRF		30,000		振込、送金手数料	5,150
G	大会予稿集売上		63,000	U	外貨定期購入費	2,309,400
					(\$20,000 @¥115.47)	
				V	その他	59,410
					アナ協H19会費	50,000
					収入印紙代	1,600
					IRFレフェリー料返金\$71 @¥110.00	7,810
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計				H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U+V 日本円合計		
¥47,345,867				¥17,709,345		
				残 高		
				¥29,636,522 *		
				*内訳		
				預金(みずほ銀行 H20.3.31)		
				¥29,552,859		
				現金有高		
				¥83,663		


(次ページへ続く)


収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$36.32		
b 外貨普通預金利息	0.29		
前期 H19.8.20	0.07		
後期 H20.2.18	0.22		
c 外貨定期預金	20,000.00		
d 外貨定期預金利息	276.94		
H19.11.26	151.92		
H20.2.26	125.02		
a+b+c+d US\$合計	US\$20,313.55	US\$合計	US\$0.00
		残 高	US\$20,313.55 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H20.3.31)	313.55
		定期預金(みずほ銀行 H20.3.31)	20,000.00


平成20年 6月 16日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

表目 動 

太田 直 

鈴木 一功 

平成 21 年 4 月 27 日

日本ファイナンス学会 御中

### 会計報告ならびに会計監査の承認

平成 20 年度会計報告ならびに日本ファイナンス学会・アジアファイナンス学会 2008 合同国際大会会計報告につき、会計処理が正確かつ適切になされていることを承認し、適正に監査したことを報告します。

以上

監 事 倉田 勲

竹澤 直哉

亀坂安紀子

# 資料 6

平成 21 年 5 月 9 日

日本ファイナンス学会  
会 員 各 位

日本ファイナンス学会

## 平成 21 年度予算について

1 平成 21 年度学会予算（別紙 1）は、前年度繰越金が 2904 万円と前年度比 2.0% 微減となったものの、かなり高い水準です。会費収入は 1830 万円（前年度比 6.1% 減）と手堅く見込まれ、その他を加えると合計 4757 万円が見込まれます。国際大会のあった前年度会計とは比べられないものの、最近の堅調な会費収入状況から個人会員 1200 人分を収入として見積ることができました。しかし法人会員・特別賛助会員については前年なみの収入が確保できるか若干の危惧があります。

2 一方、支出は、ホームページ関連経費をはじめ、入会案内、会員名簿等の印刷が引き続き予定され、印刷費、発送費等も前年並みに見込まれます。また、IRF 誌購入のため 400 万円を計上しましたが、研究観望会はじめそのほかの経費は、例年なみの支出を計上した結果、総支出は平年なみの 1830 万円の見込みとなりました。

3 以上から、翌年度への繰越金が 2912 万円（0.27% 増）と前年度並が見込まれます。平成 21 年度予算がこのとおりの結果することになると、会費収入（個人＋法人）と通常経費がほぼ均等するプライマリーバランスを達成することになります。しかし、諸活動の活発化、英文学会誌 IRF の発行状況によっては、さらに経費がかかるようになりますので、通常経費節減、収入増を心がけていかなければなりません。

以上

日本ファイナンス学会平成 21 年度  
予 算 書(案)

平成 21 年 5 月 9 日

収入	支出
<p>&lt;円勘定&gt;</p> <p>A 前年度繰越金 29,041,969</p> <p>B 会 費 18,300,000</p> <p style="padding-left: 20px;">10,000 × 1,200 = 12,000,000</p> <p style="padding-left: 20px;">50,000 × 30 = 1,500,000</p> <p style="padding-left: 20px;">200,000 × 20 = 4,000,000</p> <p style="padding-left: 20px;">300,000 × 1 = 300,000</p> <p style="padding-left: 20px;">500,000 × 1 = 500,000</p> <p>C 出版物売上等 230,000</p> <p>(国際大会予算は別紙別勘定です)</p>	<p>&lt;円勘定&gt;</p> <p>E 郵送料 1,100,000</p> <p>F 電話・通信費 1,100,000</p> <p>G 発送作業費 200,000</p> <p>H 学会案内等印刷費 300,000</p> <p>I 理事会運営費 350,000</p> <p>J 封筒・用箋等作成費 150,000</p> <p>K 学会誌</p> <p style="padding-left: 20px;">「現代ファイナンス」誌 2,200,000</p> <p style="padding-left: 20px;">I R F 誌 4,000,000</p> <p>L 第 17 回大会費用 2,500,000</p> <p>M 事務用品購入費 100,000</p> <p>N 研究観望会経費 1,200,000</p> <p>O アルバイト料 2,500,000</p> <p>P 手数料支払い 250,000</p> <p>Q 外貨購入費 2,000,000</p> <p>R その他 350,000</p>
<p>A+B+C</p> <p style="text-align: right;">47,571,969</p>	<p>E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q</p> <p style="text-align: right;">18,300,000</p> <p>残 高 (円) 29,121,000</p>
<p>&lt;US\$勘定&gt;</p> <p>A' 前年度繰越金 60,596.66</p> <p>B' 外貨預金利息 0.00</p>	<p>&lt;US\$勘定&gt;</p> <p>D' 支出 0.00</p>
<p>A'+B'</p> <p style="text-align: right;">60,596.66</p>	<p>D'</p> <p style="text-align: right;">0.00</p> <p>残 高 (ドル) US\$ 60,596.66</p>

